



カリタス ジャパン

東日本大震災復興支援活動報告

2020年3月

東日本大震災の発生から9年を迎えるにあたって

2011年3月11日の「あの日」から、今年で9年という時間が経過しました。東日本大震災からの復興への取り組みは続いており、日本のカトリック教会の支援の取り組みも10年目に入ります。あらためてこの大震災で生命を落とされた方々と、それ以降の様々な状況の中で亡くなられた方々の、永遠の安息をお祈りいたします。

この9年間の歩みが、「復興」とは「元に戻る」ことではなく、「新たな希望を生み出す」ことだと、わたしたちに教えています。昨年11月末に日本を訪問されたローマ教皇フランシスコは、東京において東北の被災地の方々と集いを開き、その中でこう言われました。「一人で『復興』できる人はどこにもいません。だれも一人では再出発できません。町の復興を助ける人だけでなく、展望と希望を回復させてくれる友人や兄弟姉妹との出会いが不可欠です」。その上で、現代社会に蔓延する利己主義と無関心を「悪」と指摘した上で、「家族の一人が苦しめば家族全員がともに苦しむという自覚をもてるよう、力を合わせる事が急務です」と呼びかけられました。

カトリック教会を土台とするカリタスジャパンは、教皇の言葉を心に刻みながら、家族の一員として互いに支え合う活動を、これからも継続してまいります。

復興庁の統計によれば、今年の1月の段階で、いまだに4万8千人を超える方々が避難生活を送られているといます。これほど多くの方が、普通の生活を取り戻すことができない状態が続いていることを、私たちは心にとめなくてはなりません。とりわけ、原子力発電所事故の影響が残る福島県内では、復興の歩みにはさらなる時間が必要であり、公式の統計には表れない避難者の方々も全国に多数おられると推測されます。人生の道筋が予想もしなかった困難な道となってしまった多くの方々が、忘れ去られることのないように、カトリック教会のネットワークを生かしながら、ともに歩み続けたいと思います。

カリタスジャパンは、カトリック仙台教区と協力しながら支援活動を行っております。復興に取り組みされている東北の方々が、一日も早く、新たな希望に生かされた生活を確立することができるように、これからも地元のカトリック教会とともに、東北の皆様と歩みをともし、支援活動を続けてまいります。これまでのカリタスジャパンの活動への多くの方々のご理解とご協力に感謝申し上げ、継続したご支援をお願いいたします。

カリタスジャパン責任司教 タルチシオ

募金収入・援助金支出報告

期間：2019年1月1日～2019年12月31日

■ 2018年12月31日現在繰越金 (円)

カリタスジャパンに直接送られた募金の繰越金	438,711,430
国際カリタス経由でカリタスジャパンに送られた募金の繰越金	4,188,678
合 計	442,900,108

■ 募金収入 (円)

	2019年1～12月
カリタスジャパンに直接送られた募金	16,302,474
国際カリタス経由でカリタスジャパンに送られた募金	0
合 計	16,302,474

■ 援助金支出内訳 (円)

【プロジェクト直接費】	2019年1～12月
ベース活動	
仙台教区サポートセンター・石巻ベース	26,953,330
カリタス釜石	31,160,000
大船渡ベース	14,542,698
カリタス南三陸	11,204,604
カトリック東京ボランティアセンター・カリタス南相馬	35,674,468
さいたま教区サポートセンター	2,690,581
ベース活動 計	122,225,681
災害ボランティアスタッフ養成	928,563
プロジェクト直接費の小計	123,154,244
【プロジェクト間接費】	
モニタリング、評価、会計監査	1,453,416
プロジェクト間接費の小計	1,453,416
合 計	124,607,660

上記報告については会計監査を受けています。